

からしたぬ

VOL.38
2021年1月号



明けましておめでとうございます
本年も宜しくお願ひ致します

トピック

新年のご挨拶

継続している新型コロナウイルス対策

うまいもん祭り＆クリスマス会 写真でご紹介

農業と福祉の連携について

松阪あゆみ特別支援学校PTA主催による福祉事業所フェアに参加して



与える福祉ではなく、その人にとって必要なことをその人の自立に向けて支援する

社会福祉法人ベテスタ 広報誌
Public Information of Social welfare corporation Betesta

新年挨拶

2021年の年頭にあたり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。日頃より、私たち社会福祉法人ベテスタの運営に対し、ご支援を賜り心よりお礼申し上げます。弊法人も皆様方のお力添えをもちまして、無事に新春を迎えることができました。

昨年は、コロナ対策助成金の活用にてICTの導入(各事業所間のWEB会議)、最新式の業務用空気清浄機、面会用パネル等を準備することができました。引き続きコロナ対策による自粛等により、活動が制約される中、しっかりと地に足をつけ支援力の質の向上を引き続きはかる所存です。そして、障がいがある方に良質なサービスを安定して提供するためには人材の確保や定着に向けたより一層の取組みが求められます。今後も地域福祉・地域社会に貢献できるよう職員一同真摯に取り組んでまいりますので、変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、皆様のご健康とご多幸を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

社会福祉法人ベテスタ

理事長 小林 孝重

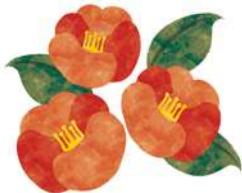


新年あけましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜り、誠に有難く厚く御礼申し上げます。皆様のおかげで無事に新しい年を迎えることができました。旧年においては、新型コロナウイルスの影響の中、皆様方も大変ご苦労されたことと思います。当法人におきましても、利用者の皆様はもちろんのこと職員にとっても我慢の年だったと感じております。新型コロナウイルスの勢いは未だ収まりませんが、引き続き感染症対策にしっかりと取り組んでいきたいと考えております。

このような状況下ではありますが、利用者の皆様一人ひとりが楽しく生きがいを持って充実した生活ができ、笑顔の絶えない場所となれるよう職員一同頑張って取り組んでまいりますので、今後ともご指導、ご支援の程よろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人ベテスタ

施設長 伊藤 和彦



継続している感染予防対策について

事務主任 中村 克司

昨年11月頃より三重県内でも第三波が来ている感じがひしひしと伝わってきます。また、今年1月に入り松阪市内でも感染者が81名(1月6日現在)と増加しています。当法人では、利用者を守るためにウイルスを「持ち込まない」「広げない」を合言葉に職員が一丸となって下記の事を実践しています。

新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた社会福祉法人ベテスタ指針

1. 移動に関する感染予防対策

県外への移動については、その必要性や移動先について今一度立ち止まって慎重に検討をお願いします。もし県外への移動が必要な場合は、事前に幹部へ相談してください。三重県内でも感染が拡大していますので、繁華街など感染者が急増しているエリアとの往来は避けてください。「三つの『密』」となる環境がクラスターなどの感染拡大を引き起こします。感染予防対策が不十分な飲食店、クラブ、カラオケなどの利用は自粛してください。軽症や無症状のまま、知らないうちに感染を拡大させないよう決して他人事と思わず、日常生活において慎重な行動や徹底した感染予防対策をお願いします。また、スマートフォンを活用した「新型コロナウイルス接触確認アプリ(COCOA)」の活用をお願いします。

2. 県外への移動事前相談

事前相談をされる場合は理由、行先、日時を正確にお願いします。移動先の新型コロナ発生状況等に応じて、帰宅後2週間の自宅待機要請、1週間の在宅ワーク後の出勤時隔離ワーク(デスクワーク職員に限る)等の対応を取らせていただく場合があります。

3. 施設内での感染予防対策(職員)

- ・出勤時の体温計測(37.5°C以下)
- ・手洗い、手指消毒、うがい
- ・7人以上が密室となる会議はオンライン会議等に変更
- ・県外への営業自粛

4. 施設内での感染予防対策(保護者)

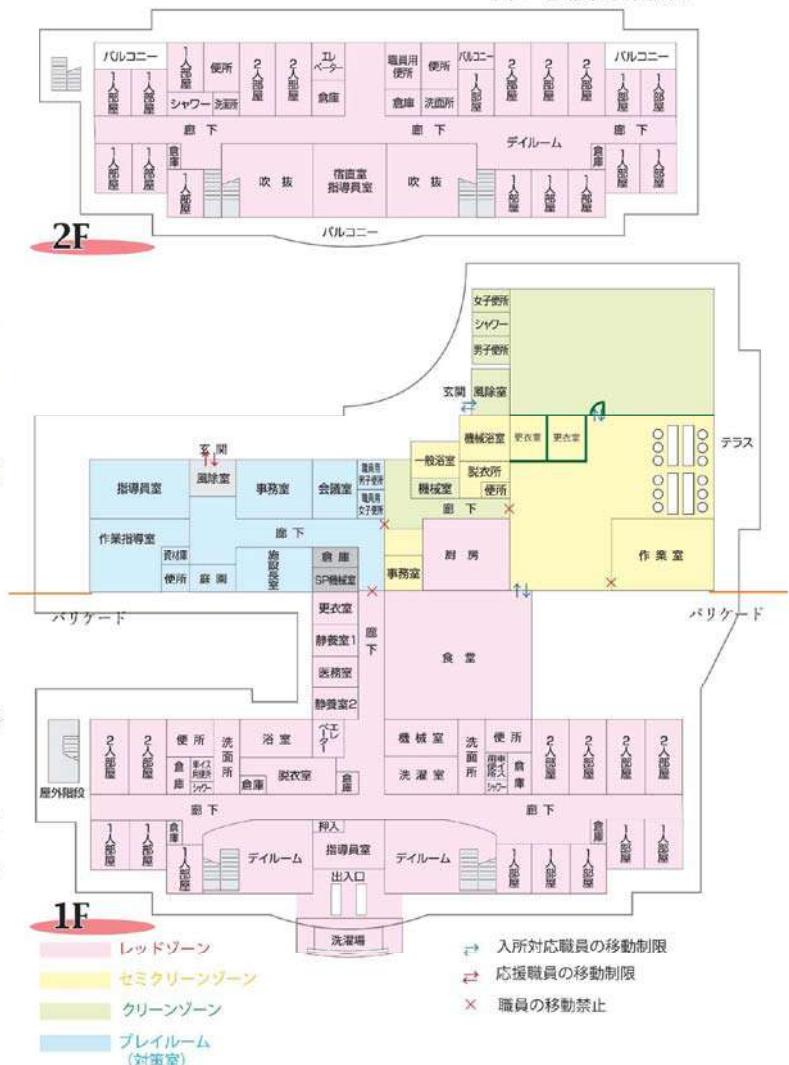
- ・面会は予約制とし会議室で行う
- ・年末年始の帰省時期を変更する

万が一入所利用者が感染した場合に備えて、新型コロナ感染への初動対応マニアルに従った行動ができるように情報を共有し、ガウンテクニックなどを研修しています。また、三重県知的障害者福祉協会より新型コロナ感染症等発生時における派遣職員候補者について当法人職員を登録致しました。これは、三重県並びに三重県身体障害者福祉施設協議会、三重県知的障害者福祉協会、三重県精神障がい者福祉事業所連絡協議会が相互協力し、三重県内の障害者支援施設やその他の施設において感染症患者が発生した場合、当該施設に登録職員を派遣し、クラスター発生当初の2週間を乗り切ることで感染拡大の防止に繋げようという取り組みです。立候補してくれた職員には感謝の念に堪えません。

感染者対応について、他施設の事例によると重傷者は入院、軽症者・無症状者・濃厚接触者は施設内で対応を行ったとのことでした。当法人では、施設内で感染者対応を行いますが、外部へ持ち出さないために各区画(ゾーン)を別けて対応します(図1)。

- (1) レッドゾーン 利用者の居住空間であり陽性者と陰性者が混在する
- (2) セミクリーンゾーン 濃厚接触支援職員の執務空間
- (3) クリーンゾーン 濃厚接触支援職員の休憩及び仮眠スペース
- (4) プレイルーム 支援対策本部及び応援職員の待機場所

図1 施設内区画別け



11月6日(金)

うまいもん祭り



こいしろの里の秋といえば、毎年多数の方々からのご協賛、ご協力を頂き開催させていた
だく「うまいもん祭り」です。例年ですと多くの食べ物屋台が並び、たくさんの保護者の皆
様やゲストをお招きしておりますが、本年はコロナ禍の為、皆様をご招待することができ
ませんでした。その為、今年のうまいもん祭りは日ごろの食事メニューとは少し趣を変え、利
用者さんと職員が協力して大鍋で作ったすき焼き風鍋と焼き芋を楽しみました。朝から利用
者さんに下ごしらえなどを手伝ってもらい、煮込みは食堂横のテラスで行いました。
100人前用意したすき焼きはあっという間になくなり、「おいしい、おいしい」と満足そう
に召し上がる皆さんのお顔が食堂いっぱいに広がりました。

新型コロナ感染拡大を防ぐために帰省や外出、面会の自粛をしていただく中で、少しでも
利用者の皆さんのお楽しそうな姿を見ることができ、職員一同大変嬉しく思いました。来年は
盛大に開催が出来ることを願いご報告させていただきます。【支援員 植村】





今年のうまいもん祭りは、夏祭りと同様に保護者の皆様や地域の方々を招いての開催ができませんでした。

食堂でトモさん提供のプレートとすき焼き風鍋に焼き芋といった、秋を感じられる食事を皆さん美味しそうに食べていました。すき焼き風鍋は、利用者さんに野菜を洗ってもらったり切ってもらったりして、協力して作りました。

夏祭りと違って秋らしいデザートはありませんでしたが、1人1本特別な炭酸ジュースが提供され、満面の笑みを浮かべて飲む利用者さんもいました。あっという間に終わってしまいましたが楽しく過ごしてもらえたようでした。

食事の後は、感染症対策の為にいつも通りの活動になってしまい、少し寂しいうまいもん祭りでしたが、来年はもっと楽しいうまいもん祭りになることを祈っています。【支援員 中桐】



12月18日(金)



クリスマス会



今年のクリスマス会は例年とは違う点がありました。新型コロナウイルス対策の為保護者の皆様をご招待できない点、夜ではなく午前中に行う点です。利用者さんを楽しませることができるか不安に思う部分がありました。しかし、皆さんクリスマス会を楽しんでいる様子で嬉しかったです。

今年は職員が数人で出し物をし、それに利用者さんが参加してもらうやり方にしました。例年は見るだけの内容がほとんどでしたが、今回は積極的に参加してもらう形になったことで、「一緒にできて楽しかった」と感じてもらえるような内容になったのではないかと思います。【支援員 川元】



今回のクリスマス会は新型コロナウイルス感染予防の為に利用者の皆さんのみの参加となり、それぞれの職員が考えた出し物を披露しました。内容はグループ内で何度も話し合いをしてアイディアを出し合いました。私たちのグループはジェスチャークイズをしました。やってみて、問題が難しかったかなあと車いすの方々が参加しにくかったかななど反省点はありましたが、職員一同が一生懸命披露した出し物に利用者さんが楽しそうに参加してくれてとても嬉しかったです。

例年とは違う形の開催となりましたが、笑い声が絶えないクリスマス会になってよかったです。【支援員 高橋】

高校生 × 福祉 応援プロジェクト

主任支援員 関口信人

当法人が運営している就労継続支援B型事業所「ぱんカンぱん」では、2020年3月から「農福連携事業の普及」「障害者雇用拡大及び賃金の向上」「災害時でも美味しいパンの製造」の3つの目標の下、「高校生×福祉応援プロジェクト」に取り組んできました。これは、当法人と地域の学校や企業が協力して、農業を通じて障がいを持つ方々の社会参加を促し、就労場所の幅を広げることで地域と共に生する社会の実現に繋げること等を目的に行っている事業です。そのプロジェクトの一環として行ったのが、新商品の開発です。

新しいパン作りのきっかけは、「災害時でも美味しく食べられるパンがもっと増えれば良いよね。」という雑談でした。

何度も会議を行い、試作を重ねて失敗を繰り返し、関係者それぞれの特徴や技術を活かしながら形にするにはどうしたらいいのかという思いを追求し、ようやく商品化に至りました。



商品名は「あんぱんかん」です。ぱんカンぱんに通う利用者様と三重県立明野高等学校作物部門に在籍されている生徒の皆様で大切に育てた安納芋を、伊勢市にある老舗菓子店 藤屋窓月堂様により餡に加工して頂き、ぱんカンぱんの工場でパンに焼き上げました。芋の栽培だけでなく、餡やパンの形成、ラベルのデザインなど開発に係る全ての工程において施設利用者様と生徒の皆様に携わって頂きました。

この「あんぱんかん」は災害備蓄用のパンとして生まれた商品ですが、長期保存の保証をするには実際に保存期間を検証する必要があります。その為、現段階での賞味期限は3ヵ月となり、保存期間の計測を行いながら今後賞味期限を延長していくというユニークな商品作りになっています。

製造方法について少しご紹介させていただきます。商品開発の上で最も重要だった事が、完成後のパンに含まれる細菌量を0にすることでした。中に入れる餡の形や水分量の調整、原材料の安納芋に含まれる菌の処理方法等、藤屋窓月堂様とぱんカンぱんとでやり取りを行い、北海道立衛生研究所へ研究結果を問い合わせるなどして試行錯誤を重ねました。すべては「必ず成功させる」という強い思いから出来上がった商品です。

1月15日(金)に明野高等学校で商品発表を行ったのち、スーパーや各種イベント等で販売していく予定です。また、藤屋窓月堂様やへんばや商店様の店舗前での販売も予定しております。価格は1缶(2個入り)500円(税別)です。非常用とは思えないほどおいしいパンです。もしもの時のためにぜひご家庭にご準備ください。

販売場所の詳細については社会福祉法人ベテスタFacebookでご確認いただけます。

就労移行と農業～ポモナファームとの連携事業～

支援員 藤岡 あや子



農作業は一定した作業が多く、自然の中で行う作業であることから、障がいのある方や高齢の方でも参加しやすく心身のリフレッシュにもなると注目を浴びている業種です。特にポモナファームはハウス栽培中心であるため、気候に左右されることなく安定した作業時間を見出すことは農福連携を検討する中で大きなメリットでした。また、ポモナファームは職員全員が農業ジョブトレーナーを取得するなど、農業と福祉の連携に高い関心のある農園であったこともあり、当法人の就労移行「ある」との連携事業にご協力いただくこととなりました。現在は週に1回、就労移行の利用者さんがポモナファームを訪ねて農作業をさせていただいている。10月から現在までの間でトマトの下葉とりやトマトの収穫、誘引用の紐作り、トウガラシの収穫など多くの作業に携わらせていただいている。



ポモナファームでは、口頭での説明だけではなく見本を見ながらの作業や幅間隔を合わせるために決められた長さの棒を使用するなど、その利用者さんに応じた作業支援にもご協力いただいている。農作業に参加している利用者さんからは「農業は楽しい」「もっとやりたい」などの前向きな声を聞かせてもらっています。

2020年8月より新規体制となった当法人の就労移行事業では、韓国アイドルの書籍・CDなどの販売を行うアビリティジャパンとの作業提携や、住友電装のグループ会社で電子部品等を扱うSWSスマイルなどの一般就労に向けた企業見学を行う一方、農福連携にも着目し、今後の連携事業の一助となることを考え、就労移行職員も農業ジョブトレーナーの資格取得に向けて動き出しています。

現在は週に1回の農作業体験ですが、今後は就労移行「ある」としての一定期間の就労体験・就労訓練の企画、農業関連企業への斡旋の可能性もあるものと考えています。また、就労移行に限らず、ベテスタ全体としてポモナファームとのつながりを持つことは、入所利用者さんの余暇としての農業体験や栽培した野菜を使った新しい缶入りパンの開発など多岐にわたる連携の可能性を秘めていると感じています。

福祉事業所フェアに参加

主任支援員 関口 信人・橘 達也



昨年12月5日(土)に三重県立松阪あゆみ特別支援学校でPTA主催の福祉事業所フェアが行われ、当法人も参加させていただきました。福祉事業所フェアは、各事業所について知る機会を作ることで学校卒業後の進路選択に活かしてもらおうとPTAの皆様が企画され、今回で2回目の開催です。

当初は8月に開催予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大により延期され、ようやく行われることとなりました。当日は松阪市内にある福祉事業所のうち32の事業所が参加しました。会場に集まった保護者の皆様や関係者は、事業所が展開するブースに足を運んで施設の特徴や卒業後の進路等について話されていました。

午前中は小学部と中学部が対象ということで、放課後等デイサービス「びーとる」を中心にご説明させていただきました。「音楽あそび教室」「英語であそぼ」「絵本の読み聞かせ」など、普段の取り組みの様子をパソコンに映してご紹介したところ、「話を聞くよりも映像で見る方が分かりやすい。」と言っていました。また、保護者様から「びーとるさんは一人一人を大切にして、学校から出る宿題を教えて頂いたりするので是非利用したい。」というお言葉も頂き、取り組みを高く評価していただく事はもちろん有難いことなのですが、放課後等デイサービスを担当する支援員の関わり方を評価していただけたことにとても嬉しく思いました。それと同時に、日々一生懸命支援に当たってくれている担当支援員には頭が下がる思いで一杯でした。





午後は高等部の方が対象でした。当法人からは就労移行支援「まるる」、就労継続支援B型事業所「ぱんカンぱん」の担当者が参加し、主に卒業後の進路についてお話をさせていただきました。その中で、卒業後の進路にぱんカンぱんを検討されているという方から、「何を作っているの?」というご質問を頂きました。ぱんカンぱんは当法人が運営している就労継続支援B型事業所で、長期保存が可能な災害備蓄用のパン作りを行っています。スタートしてから今年で3年目を迎えるのですが、認知度はまだまだということに反省した次第です。

更に考えさせられたことが卒業後の進路についてです。参加された生徒様とその保護者様が「学校卒業後は就労継続支援B型事業所を勧められたので探しています。」と仰いました。この時、私の中である思いが浮かびました。それは「なぜ卒業後はB型限定なのか?」「B型以外、例えば障がい者雇用は選択肢にはないのだろうか?」という疑問です。

特別支援学校では、高等部に入学する際、「生活自立コース」と「社会自立コース」に分かれます。「生活自立コース」は、卒業後に就労継続支援A型事業所やB型事業所、生活介護を目指す生徒が対象で、「社会自立コース」は障がい者雇用を目指す生徒が対象ということで、卒業後の進路は大きく分けて2つだけです。もう少し自由に進路選択が出来てもいいのではと感じました。そして、卒業後に「これじゃなかったな」「もっと違うことがしたいな」そんなふうに感じた時、もう一度適性を見直してスキルを磨くことができる環境があれば、その人の可能性が更に広がって、もっと豊かな人生を選択できるかもしれません。

当法人では、今年度から就労移行支援に力を入れています。今では農業系の企業様や軽作業を行う企業様など多方面からお問い合わせを頂き、ハンディのある方にその人らしい生活を提案できるようにネットワークを広げている最中です。「社会に出たいけどどうしていいかわからない」「障がい者雇用で働きたいけど無理だと思う」こうした不安に寄り添いながら、就労移行支援を将来のための『自立』に向けた手段としてご利用いただけるように今後も取り組んでいきたいと考えています。

今回の事業所フェアに参加して、高等部を卒業した後に就労移行支援で訓練を受けてよりよい働き方を目標にすることも大切だと感じました。その為には、それぞれの年齢や学年、希望する事業に応じて、当法人の理念である「与える福祉ではなく、その人にとって必要なことを、その人の自立に向けて支援する」という事の重要さを改めて実感しました。当法人では、障がい者雇用についてご理解いただける企業様を募集しております。ハンディのある方の「働きたい」という気持ちを応援するため、ぜひご協力ください。



放課後等 ディサービス びーとる

びーとるのモットー

笑顔がたくさん
増えるように

自分らしく
過ごせるように

適応力を
身に付けられるように

一人ひとりの思いを
大切にします



一日の流れ（一例）

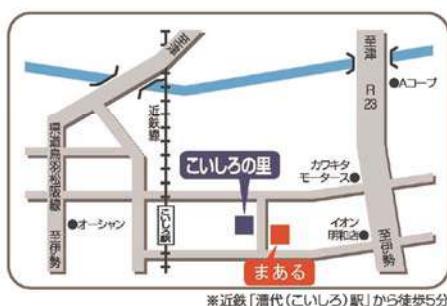
平日



土曜
祝日



アクセス



社会福祉法人ベテスタ まるる
三重県松阪市稻木町1936-1



google map

見学・相談
随時受付中です！
お気軽に
ご連絡ください

お問い合わせ 社会福祉法人ベテスタ

HP【社会福祉法人ベテスタ】検索

tel 0598-28-4835 (代表) 0598-54-1541 (土日・夜間) fax 0598-28-4895